



2月定例会 一般質問

議会報告

抜粋

浅間山防災体制の強化と「恵み」の活用について

【山岸】群馬県と長野県をまたぐ浅間山の大規模噴火のハザードマップを踏まえた、市町村の避難計画等の策定支援、マップの周知をどのように進めるか？

【危機管理部長】市町村の防災マップや避難計画作成に当って火山専門家などの助言を頂きながら支援を行う。また、ハザードマップを広報や説明会により周知を図る。県でもホームページを活用するなど周知に努める。



3月23日、浅間山火山防災協議会は、大規模噴火想定ハザードマップを公表。火砕流や火砕サージ(高温の暴風)が、小諸・佐久市、軽井沢・御代田町に及ぶとされている。火山灰も東御・上田市でも50cm以上積もる恐れがあるとしている。万の場合を想定しながら日頃の安全対策を着実に、住民と観光客との情報と備えを共有することが大切。

※同時に小中規模噴火想定マップも改訂公表している。

林業種苗生産拡大と安定供給について

【山岸】今年度カラマツの苗木が不足していると聞いている。需要と供給の調整は？

【林務部長】適切な森林更正の為に苗木の供給は不可欠で、向こう3年の生産目標を定め適切化に取り組んで来たが、精度よく見通すことは難しい。これまで以上の連携強化の為に、今年度に生産者、造林者、山林種苗協同組合及び関係機関による会議を開催し、諸々の検討に入りたい。

【山岸】造林用優良苗木の計画的生産と、需給の安定化の為に課題と対策、基盤整備は？

【林務部長】増加が見込まれる主伐・再造林に対し、計画的な苗木生産の為に、確実な苗木の需給調整を図り、コンテナ苗木の増産が必要。増産の為に、育苗期間の短縮や大量生産が可能コンテナ苗木導入を進め、施設整備への助成や技術向上の支援が不可欠。確実な再造林へ環境づくりに取り組む。

蓼科山山麓より御牧原幹線水路 農業水利施設の老朽化対策について

【山岸】農業用水利施設は、復旧のために長時間を要し、被害の甚大さが想定される。老朽化への対策は？

【農政部長】県内は昭和30～40年代の農業水利施設が多く、補修や更新費用の増大が課題。基幹水利施設は土地改良区などと長寿命化計画を策定し、適時適切な整備によりライフサイクルコストの低減を図っている。頭首工や水路トンネルなど重要構造物については優先的に計画を策定する。



※詳細は、県議会ホームページをご覧ください。

本年度は、総務企画警察委員長に就任。

県行政の総合的な企画調整、地域振興、県財政の状況、犯罪・交通事故、少年非行の防止などについて調査や議案等の審査をします。



長野家庭裁判所佐久支部

調査官の常駐、少年審判の取り扱いなど、庁舎充実を求める要望が出されました。

佐久支部管内の人口と家事新受事件数は、県内6支部の中3番目でありながら、唯一佐久支部には、調査官が常駐しておらず、地域間の不平等な状態。また、佐久支部は唯一、少年事件も取り扱っていない。また、県内支部の中で唯一エレベーターもなく、車いす利用の方や高齢者に不便である他、防寒設備が不十分、試行面会室がないなど、設備面での課題も多い。これらの改善、充実を求める要望が長野県弁護士会と「裁判所佐久支部の充実を求める協議会」より出されました。



小諸市内 県道・国道整備状況



国道141号線 小諸ICから諸信号を経て小諸商業まで拡幅。市町地区、栃木橋架け替え工事が進む。



峰の茶屋小諸線 小諸高校通学路県道上の歩道設置。



県道 馬瀬口小諸線 中村JA北大井支所前危険交差点の歩道設置。



諏訪白樺湖小諸線 一ツ谷御影交番交差点から三岡駅入口の県道の歩道設置。

人口減少と少子化問題について

人口減少が進行している地方では危機感が強いが、停滞期が続く首都圏では危機感が弱い

若者が集中する首都圏では2020年ころまで人口増加が続き、その後暫くは停滞期が続く。全国人口も1億2000万人以上のピーク時の停滞期が暫く続く。従って首都圏の政財界や学者・メディアの人口減少に対する受け止め方は危機感が弱い。他方地方ではかなり前から減少が始まり、多くで5、10%の減少が進んでいる。自治体の大半はすでに国の減少速度を上回る人口減少が進んでおり危機感は強い。出生率回復や出生数減くい止めは地方自治体まかせでは実現しない。

小諸市も人口減少が続く。

一昨年は754人、昨年は303人の減少で、現在の人口は約4万1800人。自然減、社会減が続く、このまま何もしないと、22年後(2040年)には3万2000人になる試算もある。

市はPR活動の他、空き家バンク・働く場所創造のための新しい産業団地の造成、18歳までの子どもの窓口医療費無料化など定住増加策を実行しているが、人口減少は単一の市町村では難しいものであり、県・国をあげての対策が急がれる。



信濃美術館 整備事業の全体像まとまる。

2021年度開館予定の信濃美術館



この事業は、信濃美術館(本館)の建て替えと長野市の城山公園噴水広場の再整備を行うものです。長野県の文化振興の拠点として、ランドスケープ・ミュージアムのコンセプトのもと、公園と東山魁夷美術館も含めた施設の一体的な空間をデザインしていきます。



設計者のと 高橋 隆之